

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム きずなの郷
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市古閑下町2225番地
記入者名 (管理者)	神原 都
記入日	平成 21 年 2 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	: 地域の方々への理解をして頂くため取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	: 運営推進会議の中でも地域行事への参加可能な行事等の連絡をお願いしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	: 地域の方・家族も含め見学等の受け入れや実習生の受け入れも行ったが、地域での勉強会等の開催は行っていない。	○	: 人材育成の貢献として実習希望もあり、地域密着の理解も含め地域の方々のボランティアの声かけも継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	: 自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。 : 結果はミーティング等で話し合ったり・掲示して具体案の検討や実践繋げるようにしている。 : 業務の本質の理解・慣れ予防も含め改善に取り組んでいきたい。	○	: 全職員で自己評価をふまえ、目標や改善に取り組みサービスの質の確保や向上につなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	: 随時、前回の参加メンバーよりの質問・意見・要望も含め、その経過・結果報告をして一つひとつ積み上げていくようにしている。	○	: 運営推進会議の中でも、事業所の役割や地域への貢献として緊急時の避難場所等の提案も行っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	: 市町村担当者とは折りのふれ、相談や報告を行い意見をもったり・事業所の行事への参加も声かけし、快く受けてもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	: 地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っていない。	○	: 事業所の勉強会のなかで計画したり、研修会等にも参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	: 勉強会やミーティング等で高齢者虐待についての理解・防止に全職員気付き等でお互い注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	:契約時には重要事項説明書を始め、事業所のケアに関する考え方・取り組みや対応可能な範囲について説明を行い、理解や納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	:入居者の意見・不満・苦情は職員間で共有し、支援方法を検討したり家族共々考え対応しているが、訴えが理解できないこともある。	○ :入居者の言動・態度から本人の意向を探ったりして対応したり、Drへ報告・指示又家族の協力を受ける取り組みの継続をしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	:必要時は随時電話で状態・状況報告をしている。 :家族の訪問時、近況報告をし行事参加や作品の説明をしたり見学してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	:訪問時等、意見・不満・苦情・気付きなどが無いかの声かけや機会を作っているが、短時間の訪問家族もあり一部の家族との傾聴や機会作りとなっている :朝・夕のミーティング時、出された意見・要望・苦情など話し合い、ケアに即反映させるようにしている。	○ :家族会も発足している。 家族同士で話し合時間を取り、意見を出し合い意見や苦情なども代表者から事業所へ伝えてもらう取り組みをしていきたい。 :運営推進会議の中でも家族会代表者から意見をもらっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	:ミーティングや月1回の勉強会や食事会などを行い、話し出しやすい場面作りや必要時は、随時意見・提案を聞く機会を作っている :他部所との交流もレクリエーション委員会を職員で構成し年に4～5回のレクリエーションの計画を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	:職員の希望勤務や勤務変更も取り入れている。 :夜間の対応や利用者の状態変化に応じた体制が取れている。 :職員(家族)の急病や急な休みの時の人員確保	○ :職員の希望休の重複を含め状況変化時勤務体制がスムーズに行はれるように職員の増員を図っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	:離職や異動を最小限にとの思いはあるが、新人職員には事前に数回顔を出してコミュニケーションを取ってもらったり、馴染みの職員がフォローを行っている。 又家族には訪問時、紹介・説明を行っている。	○ :グループホームの役割や理解を深める為にも職員の意識の構築をしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	:日頃よりケアに対しての気づき等申し送り時に検討・対応を皆で話合っているが完全に統一が図られていない事もある。 :研修委員を各部署より選出し県・市・認知症部会・他事業所・病院の開催される研修会への参加声かけをする、参加者は研修報告を勉強会等で発表している。	○ :事業所内外の研修会参加の声かけ・対応を継続し他部所での実習(研修)の計画はあるが、受け入れは何名かあったがこちらからの実習経験はないので意識・ケア向上の為に研修機会の確保を図っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	:県・市内の連絡会に加入して、定期的に研修会に参加し意見交換やサービスの向上を目指している。 :近隣の病院主催の研修会にも、同業者と声かけ合い参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	:各部所の職員でレクリエーション委員会を作り、年4～5回のスポーツ交流・飲食などでの親睦の場づくり、気分転換を図れる機会を作っている。 :自分の悩みや思いをうまく表現できない職員の心身共に健康な状態で働ける職場作りをしていきたい。	○ :職員によって感情表現も違い、日常の会話や表情の中で悩み・ストレスを把握したり、必要時には気持ちを発散出来る場面や雰囲気作りをして、チームワークが不安や不満なく出来るようにしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	:運営者も1日1～2回は現場に来て入居者の対応や職員間での会話・動き表情などの把握をし、個々本人の意向を重視しながら向上心を持って働けるように職務評価を行っている。 :福利厚生等の充実を図るために検討中	○ :資格取得や実践的効果に向けた支援継続をして「楽しい職場づくり」をモットーに職員の心身共に健康な労働環境作りに努めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	:事前に面談し生活・心身の状態や本人の思い把握するように努め、傾聴したり・会話したりしながら本人に受け入れられるような関係作りをしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	:家族の不安や困っていることなどこれまでの経緯をゆっくり聴き・理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	: 本人や家族の思いと状況を確認し、担当ケアマネージャ等とも連携を取りながら必要に応じて、サービス機関につなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族をグループホームに見学に来てもらい体感してもらう事から始め、早急な対応が必要な場合はご家族・紹介事業所担当者との協議しながら安心感につながるような声かけ・対応等をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	: 好まれること、出来られる事等の得意分野の見極め・理解にて出来られることの役割を多く持たれ、お互い協働しながら達成感・満足感を得て和やか日常生活が送れるような、場面作りや声かけをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	: 家族の思いを受け止め、日々の暮らしの出来事や気づき等の情報共有に努め、家族と同じ様な思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	: 本人の心身状態を見極め、外出・外泊で家族と一緒に過ごされるように対応しながら、事業所の行事に家族を誘ったり、年賀状・暑中見舞いなどご自身で書いてもらったり関係が途切れないよう努めている。 : 本人が望まれ、必要時は家族へ訪問願いの連絡も取っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	: 体調や天候などに応じて家族の送迎で、自宅にて過ごされたり・理容・美容院や友人・知人との談笑又、親類の集まる行事(年忌のお茶)等にも参加されたりと、継続的な交流が出来るよう働きかけているが入居者全員の外出・外泊対応はできていない。	○	: 自宅への外出・外泊が出来られる方は家族の都合もあり限られているが、他の入居者ご家族にも体調や天候等も考慮しての外出等で家族と一緒に過ごされる時間が出来るように働きかけていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	: 心身の状態変化で気分落ち込み・感情の起伏が激しくなったり、日々・時々変化するので職員が注意深く見守り、入居者同士の関係性についても情報を連携し、全職員が共有し調整役となって支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	:入院や他事業所への転居された後も家族の相談に情報提供や他事業所の担当者にも情報提供・交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	:日々の関わりの中で声かけし、表情・言行動の把握に努め真意を推し測ったり・見守っている。 :意思疎通の困難な方には、表情・行動等の状態変化の把握や家族に状況説明を行い情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	:入居時の情報や日々の関わりの中での本人自身の語りや家族・親類・知人等の訪問時に少しずつ生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	:入居者一人ひとりの生活リズムや行動又好まれること・出来ることに目を向け把握しながら、役割を持ち達成感や満足感を感じられるように支援を行っている。 :全員の方が家事動作等にかかわってはもらえない。	○	:出来ること・わかることなどを行動や動作から、一人でも一つでも多く感じ取り、その人の全体の把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	:一人ひとりのニーズにあった個別の具体的介護計画を作成し、状態変化時などカンファレンスを聴きサービス内容変更等を協議している。 :本人がよりよく暮らすために本人・家族との話す機会を全職員が作っていききたい。	○	:日頃のケアの中で全職員の気づきを申し送り時などで共有し、必要時には家族に連絡対応しているがアセスメント・モニタリング等も全職員で行っていききたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	:本人の状態が変化した時や家族の状況やニーズが変わった場合は家族本人・必要な関係者と話し合い見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	: 個別ファイルへ日々の暮らしの様子や行動・言葉・状態変化など記録しているが、朝・夕の申し送り時担当職員が個人記入の状態・状況報告をし、身体状況によっての対応を職員が共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	: 本人・家族の状況に応じて通院等の必要な支援の対応を行っている。 : グループホーム事業所の多機能性を発揮していない。	○	: 運営推進会議の中で、災害時における緊急避難場所としての地域への開放提示を伝える。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	: 本人と地域の警察・消防署・民生委員とさまざまな接点を見出し、地域の方々のボランティア慰問等の協力を呼び掛けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	: 介護保険外の生活支援が受けられるように、他のケアマネジャーやサービス事業者との情報交換等を行い支援に繋がっている。 : 入居者・家族の希望にて訪問理容・美容サービスを利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	: 現在のところ、地域包括支援センターと協働していない。	○	: 地域包括支援センターとの関係づくりを行い、周辺情報や支援に関する情報交換・協同関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	: 事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ病院・医院での医療を受けられるよう、ご家族の協力で通院や必要時の職員同行通院をしたり、訪問診療を受けられるケースもあり複数の医療機関との連携を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	:かかりつけ医師(認知症専門医・認知医療に熱心)に入居者の、個々の状況を報告・相談・指示を仰ぎ支援に繋げている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	:准看護職員が常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしているが、転職した看護師に相談・助言などで対応をするケースもある。	○	:看護師・訪問看護ステーション等連携医療機関の確保を行ってきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	:入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、頻繁に顔を出したり・職員が見舞うようにしている、家族・医療機関でのケースワーカー・ケアマネジャーなどと情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	:重度化に伴う意思確認書を作成しているが一部の家族とターミナルケアに向けて話し合いはしたが、全家族とは行っていない。	○	:重度化した場合や終末期のあり方・事業所の対応についてなど、家族と話し合う機会を作りたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	:終末期該当ははれないが、日々の状態観察・情報の共有を職員間で行い体調変化時には、医療機関に連絡しすぐ対応して頂けるように医療機関とも密に連携を図っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	:新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにこれまでの生活環境・支援の内容・注意が必要な点について情報提供し連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	: 月1回の勉強会等で職員の意識向上を図り、言葉かけ等全職員で話し合いながら入居者のプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	: 日常生活の中で一人ひとりの力や好み・希望に合わせて、入居者自身が決定する場面を作り、拒否見られる時などは	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	: 入居者の個々に応じた時間帯での入床・起床を行っている。 : 散歩・調理・洗濯干し、たたみ・台拭き・掃除など、その時の本人の意思・気持を尊重したり、傾聴したりして体調に無理のないように対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	: 毎朝、洗面時鏡を見てもらい髪・髭剃り等の身だしなみをしてもらうアプローチをしたり、行事や外出時等はお化粧や以前されておられたマニキュアも好みに合わせて塗ってもらわれ楽しんでおられる。 : 理容・美容院も定期的に行きつけのお店に家族の送迎で出かけられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	: 日頃の会話にて利用者が何を食べたいか・飲みたいか等傾聴し、一緒に下ごしらえをしたり食事を楽しく・見て・食べてもらっている。 : 野菜の下ごしらえ後や食事後の台拭きをその時の心身の状況によって声かけし行ってもらっている。	○ : 家事作業への関わりも無理のない姿勢や量なども把握しながら少しでも出来る事を引き出し、入居者全員が何か携われる場面作りや声かけをしている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	: 若い頃、仕事柄飲酒・喫煙などされておられたと家族・本人から聞いて用意しているが今のところ要望は無い。 : 季節に応じてお屠蘇・甘酒等を提供したり、おやつ時にはお茶・コーヒー・紅茶などおやつに応じたり、本人の好みを伺い対応している、おやつもなるだけ一緒に手作り出来、楽しみに・美味しく味わってもらうようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	: 個々の排泄のパターンを日々の申し送りや体調を把握して布パンツ・リハビリパンツなどの使用で、本人からの訴え・多動時の声かけ・トイレ誘導、などの対応している、 : 夜間帯は不眠・尿漏れに繋がらないようなトイレ用品使用と随時のパット交換・Pトイレ・トイレ誘導等を一人ひとりに合わせ行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	: 入居者の体調や状況により、随時入浴の声かけ確認をしたり仲の良い方同士やご夫妻での希望があれば一緒に入浴してもらい、シャワー浴・熱め・温め・長湯など希望に沿って入浴支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	: なるべく日中の活動を促し生活リズムを整え、一人ひとりの体調や表情、希望・生活習慣などを考慮し入眠や安眠に繋がるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	: 個々の出来る役割・得意分野の発揮(掃除・洗濯干し、たたみ・野菜の下ごしらえ・台拭き・お茶準備、配り・おしぼり配り・草取り・木、花の水やり・「配膳・後片付け・茶碗洗い＝自身の物」)等を職員と一緒にしてもらい、必ず感謝や労をねぎらう言葉を添えている。歌を好まれる方が多くDVD/CD・本を使用して一緒に歌う。	○	: 一つでも多くの出来ることを見出し、得意分野での役割の発揮が出来ることで、やり甲斐や楽しみ・達成感・意欲の向上につなげていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	: 3名は家族の協力を得て少額を手元にもっておられ、病院や必要物の購入時は支払いをされる。 : 週に買い物の(外出)の計画はしているが実行できていない。	○	: 1日の流れを見直し、本人の金銭管理や社会との繋がりが維持できる様、(買い物)出かける機会を作り実行していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	: 気分転換や季節の体感を図るために天候や体調を考慮し2~3名の方と近隣を散策したり、全員で戸外を1~2周の散歩・ベンチにてお茶・歌・ゲーム・軽めの体操などを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	: 季節感や天候に合わせた年間行事計画は実施できている。 : 家族・本人の希望にて外出・外泊はできているが全員ではない	○	: 家族会の協力を受けながら全員で参加できる遠距離の外出等の機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	: 毎年、年賀状と暑中見舞いを出すための支援を欠かさず行っている。 : 電話は、家族の要望(仕事の都合など)に配慮し入居者の希望に応じての日常的な支援は行えないが、時間帯を考慮しての電話の取り次ぎは行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	: 入居者の生活リズムに合わせ、家族や親類・知人・入居前の近隣の方などいつでも気軽に訪問やお顔を出して頂けるように訪問時等再度の訪問声かけをしている。 : 定期的に訪問される方々や希望時は居室やフロアーでお茶・食事を一緒にとられたり、ゆっくりと過ごしてもらうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	: 全職員が介護保険指定基準の身体拘束事項の内容の確認・把握・周知の徹底を、毎日の申し送り時や職員の勉強会にて再確認し身体拘束の防止に努めている。	○	: 身体拘束事項の内容周知の徹底を継続していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	: 悪天候以外は窓やドア・居室、玄関入口は開放して、換気を行うようにしている。(害虫侵入防止でアミ戸使用) : 入居者が外に出たい様子・場面時は理由を理解し職員一人ひとり考え対応する。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	: 職員は入居者と同じ空間で記録等の事務処理を行いながら見守りや状況把握をする、夜間は状態に応じて様子観察や随時確認をするとともに、起きられた時にすぐ対応できるように工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	: 利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、常時使用するものは見守り・厳重に保管すべきもの・保管管理が必要なもの等に分け管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	: 日々における、一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ工夫・アイデアを出し合って対応している。 : 日々のヒヤリ・ハットの記録を確実にし、万が一の事故発生時には速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	:日勤・夜間帯での緊急時の対応について慌てず・確実に適切な行動が取れるようにマニュアルを整備し、勉強会等でも再度確認している。 :行政関係者や消防署の協力を得ての研修は行っていない。	○	:「訓練は受けているがいざという時には不安」との職員の声も聞かれ、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、全職員が対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	:マニュアルを作成し、消防署の協力を経て避難訓練、避難経路・場所の確認、消火器の使い方等の自主訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	:一人ひとりに起こり得るリスクについて、職員が日常の支援の中での気づきをミーティング等で話し合い・把握しながら、家族に対しては自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを契約時など、随時説明し理解を得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	:毎日の状態を把握し、少しでも状態・様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い職員間での情報の共有をして対応にあたり、状況により医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	:服薬薬品名カードを個人ケース記録の目につく場所に作成したり、個々の服薬カードを勉強会等で薬の内容(目的・用法・用量・副作用)の再確認を随時行っている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られる時は、詳細な記録をとるようにし、看護職員や(主治医)医療機関との連携を図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	:水分量・食物繊維を摂り入れたり、散歩・家事活動・軽めの体操、レクリエーション等身体を動かす機会を設けて、自然排便が出来るように取り組んでいる。 :排泄チェック表等も活用し、排便・尿の身体に及ぼす影響を理解し入居者の状況により、Drの指示に沿って薬の服用支援を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	:毎食後の歯磨きの声かけ・準備・力の応じて職員が見守ったり、介助を行い夕食後には義歯を預かり洗浄等の対応をしている。 :口腔ケアの重要性を学ぶために、研修に参加したり事業所内でも技術を身に付けられよう勉強の機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	:食事や水分の摂取量を毎食、間食等も含めチェックし個人ケースに残したり、必要時は主治医に報告・指示を受け定期報告等の対応や月1回の体重測定も行いチェック表に記録して、気づきや状態変化などが見られた時には家族に説明し受診に繋げている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	:事業所内で起こり得る感染症について情報収集を行いマニュアル作成し予防・対策・早期発見・早期対応に努めている。 :家族に同意をいただきインフルエンザ予防接種を受けてもらい、やむをえない外出時はマスク使用・手洗い・うがいの対応をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	:職員の業務前の手洗いの励行・調理器具の漂白・台所水周りの清潔・衛生を保つようになっている。 :行政からの配布資料は職員の目に触れるところに貼り、内容確認や食中毒への意識の継続を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	:入口に花壇や植えこみがあり近所の方々から頂いた花の苗や、季節ごとの花・花木などを植えて季節感を感じてもらい、プランタンやベンチ等も置き、玄関には明るく・入りやすい雰囲気になるように置物や花を飾ったり、ドアを開放し網戸だけにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	:季節・月ごとの行事を貼り絵・折り紙・ちぎり絵・自分の思いを書かれた草書などを入居者と共に作成し壁面に貼って、家族と共に楽しんでもらっている。 :フロアの窓側ではそれぞれ、思い々の姿勢で日光浴や景色を楽しまれる事もある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	:日々の状態を把握し入居者の関係性や相性なども配慮した空間づくりをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	:入居者の希望を家族と共に検討して畳敷きで入居前に使用されておられた和布団やテレビ・リクライニングの長いす等安心感につながる好みやなじみの物を活かす対応をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	:天候を見ながら、朝～夕全居室換気を行いトイレや汚染臭の強いところは、清掃・換気・消臭剤で悪臭がでない工夫をしている。 :冷暖房や湿気は入居者の体調や状態(好み)に合わせて調節や加湿対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	:日々の状態把握や気づきにて危険箇所は随時環境整備して安心・安全確保と自立へつながる取り組みをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	:家族の情報も受けながら、「分らなくなった・出来なくなった」との不安や失敗・混乱が生じた時はゆくりと話を傾聴し、都度、職員で話し合い状況に合わせた環境整備に努め本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるように取り組んでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	:天候を見ながら、建物周囲のいぬ走りや駐車場を利用して散歩を兼ねて、下肢筋力低下防止や気分転換を図っている、又玄関先やベランダにベンチを置き日光浴や涼んだり、お茶を飲んだり、レクリエーション(軽めの体操・ゲーム・DV、歌詞本での歌)を行って外の空気や景色も楽しんでもらうようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*入居者一人ひとりのペースや自由を大切に、出来ること・分かることの力が発揮でき、職員を含む馴染みの人間関係で支え合い穏やかな、安心した生活が送れることで家